

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	牧田 智誉子 印田
所属機関	愛知県がんセンター中央病院
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	米国放射線腫瘍学会
渡航期間	自 平成29年9月23日 至 平成29年9月29日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	頭頸部扁平上皮癌術後照射に対する検討について発表
<p>平成29年9月23日から28日にアメリカ合衆国サンディエゴで行われた米国放射線腫瘍学会に出席し、頭頸部扁平上皮癌に対する術後照射に対する2つの方法について比較検討した結果を発表してきた。</p> <p>頭頸部扁平上皮癌の根治切除術症例において、再発リスクを有する場合の術後補助療法の標準治療は放射線治療である。以前我々はハイリスク領域に局限した照射法(LF: limited field)の治療成績を報告し、その局所領域制御率が不良であることを報告した。2011年からは全頸部(WN: Whole neck)を照射範囲とする照射法に変更した。今回は、LFとWNの2つの治療方針で行われた治療成績と有害事象について、傾向スコアを用いて比較検討した研究成果について報告した。癌研有明病院の参加者から術後照射が全頸部照射の方が、局所領域制御は良好であることはよくわかるが、全ての症例に必要なかどうかという点について質問があった。今回の発表に加えて最近行った追加の解析で中咽頭癌の中には一部片側の照射のみでも良い可能性があることについてディスカッションをした。根治照射についても HPV 陽性の中咽頭癌においては治療強度を下げる試みがされており、線量や照射範囲を症例に応じて減量できる可能性があり、今回の学会で頭頸部癌の教育講演や発表でも取り上げられており、今後本研究においてもさらなる検討が必要であると考えられた。</p> <p>その他、頭頸部癌、子宮癌、皮膚癌などの教育講演や、緩和照射についてのシンポジウムなど公聴し最近の治療のトレンドや他の国の臨床家が実際にどのように治療を行なっているかなどを知ることができた。</p> <p>今回、海外派遣研究助成金の交付をいただくことができ、このような世界的な学会に参加し、多くの国々の先生方と交流を持ち、新たな知見を得るできたことは、今後の私の臨床において非常に有意義であり、心から感謝いたします。</p>	